

## ▼マグネビスト静注シリンジ [注] &lt;販売中止&gt;

【重要度】★★★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】ガドペンテト酸メグルミン meglumine gadopentetate 【分類】MRI 用造影剤

【単位】▼15mL/シリンジ

【常用量】0.2mL/kg (腎臓を対象とする場合0.1mL/kg)

【用法】静注

【透析患者への投与方法】NSF のリスクとなるため原則禁忌 (1)

【その他の報告】使用する場合には用量を減じ投与後は速やかにHD による体外除去を図る。PD では除去効果が低いため一時的な血液透析の併用を考慮する (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】eGFR 30mL/min/1.73m<sup>2</sup> 未満 (透析症例を含む) の場合には、ガドリニウム造影剤使用後のNSF 発症の危険性が高いとされており、非造影MRI 検査、単純CT、超音波検査などの検査で代替すべき (腎障害患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン、日本医学放射線学会・日本腎臓学会 2008) eGFR が 30 mL/min/1.73m<sup>2</sup> 以上、60mL/min/1.73m<sup>2</sup> 未満の場合には、ガドリニウム造影剤使用後のNSF 発症の危険性が必ずしも高くないとする意見もあるが、ガドリニウム造影MRI 検査による利益と危険性とを慎重に検討した上でその使用の可否を決定すべき。その際には、マグネビストは使用を避けるのが賢明であろう (腎障害患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン、日本医学放射線学会・日本腎臓学会 2008)

【その他の報告】GFR 30mL/min 以上 : 0.2mL/kg, GFR 30mL/min 未満 : NSF のリスクから投与を避ける (17)

【特徴】MRI 信号を増強する Gd<sup>3+</sup>は体内への蓄積性が強く人体に投与するのは望ましくなく、そのためあらかじめ重金属症の解毒剤として使用されてきたキレート剤を Gd<sup>3+</sup>に結合することによって毒性を軽減した Ga-DTPA 製剤

【主な副作用・毒性】ショック、アナフィラキシー、痙攣、腎性全身性線維症、動悸、血圧低下、血圧上昇、喘息発作、咳嗽、くしゃみ、頭痛、めまい、熱感、味覚異常、注射部位異常など

【代謝】代謝されない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 100% (1) 91% [24hr まで] (11)

【CL】1.0±0.7mL/min/kg (1) 1.76~1.94mL/min/kg でGFR に等しい (11)

【t<sub>1/2</sub>】α相 : 2~14分、β相 : 0.93~1.86時間 (1) α相 : 0.2hr, β相 : 1.6hr (11) Ccr 20mL/min では30hr に延長 (1)

【蛋白結合率】1% (1)

【Vd】72±89mL/kg (1) 0.266L/kg (11)

【分布】静注投与後急速に細胞外液に分布し、組織には蓄積しない (11)

【MW】742.79

【透析性】1回の透析で70%、3回の透析で投与量の97%が除去 (1) PD クリアランスは約5mL/min (1)

【TDM のポイント】TDM の対象にならない。腎不全患者では半減期が延長しクリアランスが低下する (11) 【O/W 係数】0.002 (11)

【更新日】20240613

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。